授業科目名 <英訳>	宗教人類学 Anthropology of Religion	担当者氏名	人文科学研究所 准教授　石井　美保

群	人文・社会科学系科目群	系列	地域・文化系（基礎論・人類）				
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義
開講期	前期	曜時限	火1	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

この授業のタイトルは「宗教人類学」である。「宗教」と「人類学」の取り合わせは、一般に耳慣れないものであるかもしれない。だが、宗教は常に、人類学の重要な研究対象のひとつであった。人類学者が取り組んできた「宗教」とは、キリスト教やイスラームといったいわゆる「世界宗教」にとどまらない。人類学的考察の対象となる「宗教」とは、「世俗」から分離された特別な領域を意味するのではなく、政治や経済の動向、また人々の日常的な悩みや欲望と密接に結びついた、なまなましい現象や具体的な行為である。

この授業では、主に次のような問いについて考えたい。私たちの日常的な実践／行為における「宗教性」をどのように考えるべきか。憑依や呪術といった一見「アルカイック」な宗教実践や、ファンダメンタリズムと呼ばれる一見「過激」な宗教実践と、私たちの日常的な営みとの共通性は何か。この授業を通して、宗教とは、特定の教義やそれへの信仰だけを意味するものではないこと、また、宗教をめぐる問題は、日常の生の偶有性、近代的主体像の限界、モノ／非人間のエイジェンシーといった広大な問題系とつながっていくことに気づいていってほしい。

改宗、顕示的消費、ファンダメンタリズム、憑依、巡礼、世界遺産。現代世界におけるアクチュアルな宗教現象と人々の行為を論じる九つの論文を読解することを通して、人類学的な宗教研究の基礎とその新たな展開――アニミズム、人格論、エイジェンシー論、言語行為論、モダニティ論――を学ぶことが、本授業の目的である。

[授業計画と内容]

授業では、以下のトピックについて、それぞれ１～2回の授業を行う。それぞれのトピックについて、まず受講生が教科書に基づいてグループ発表し、その後講師が講義を行う。

１）イントロダクション
２）コモロにおける精霊憑依と人格論
３）アニミズムと境界論
４）バリにおける顕示的消費競争と神秘主義
５）現代日本の憑依と巡礼
６）インドにおける「不可触民」と改宗
７）ガーナにおける呪術の行為遂行性
８）パプア・ニューギニアの呪文と世界への働きかけ
９）マルタにおける「カトリック・ファンダメンタリズム」
10）ケニア「聖なる森林」の世界遺産化と宗教のモダニティ
11）まとめ

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・基準]

授業での発表（40%）、平常点（30%）、最終試験（30%）を総合して評価する

宗教人類学(2)へ続く↓↓↓

宗教人類学(2)

[教科書]

吉田正興・石井美保・花淵馨也（編）『宗教の人類学』（春風社）

[参考書等]

（参考書）

その他、授業のなかで適宜紹介する。

（関連ＵＲＬ）

http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/zinbun/members/ishii.htm

[その他（授業外学習の指示・オフィスアワー等）]